

平成 30 年度 学校目標

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	(1) 幅広い学習ニーズ対応する多様で柔軟な教育課程の編成をするとともに生徒主体の授業づくりに取り組む。 (2) 生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な活動を引き出す。また両校での交流を行う。	(1) ① 支援が必要な生徒の情報を共有し、生徒のニーズにあった学習支援を進める。 ② 協同的な学びを推進する。 (2) 行事等での生徒の主体的な活動を引き出し充実させるとともに、新校に向けた交流を計画的に進める。	(1) ① ・学習支援が必要な生徒の実態把握の機会を定期的に設け、サポートティーチャーの有効活用につなげる。 ・柔軟な教育課程編成のため、新校のカリキュラムと教務規定等の検討を進める。 ② 教職員全体で各授業の取組みを支援できる協同的な学びの体制づくりを進める。 (2) ・生徒会や委員会で年度目標を掲げ、目標達成のための活動を推進する。 ・新校に向け、文化祭や部活動で横須賀明光高校との交流を計画する。	(1) ① ・生徒の実態把握によるサポートティーチャーの有効活用ができたか。 ・新校の教務規定やカリキュラム等の検討ができたか。 ② 協同的な学びを取り入れた授業展開を増やすことができたか。 (2) ・行事等で目標に沿った生徒の主体的な活動が実施できたか。 ・新校に向けた横須賀明光高校との交流ができたか。
2	生徒指導 ・支援	(1) 部活動を活性化させ、学校生活への充実感をもたせる。 (2) 一人ひとりに応じたきめ細やかな生活指導と生徒支援を行う。	(1) 部活動への加入を促進し、活動を支援する取組を進める。 (2) 共通理解に基づいた生徒指導・支援体制を充実させる。	(1) 部ごとに年度目標を掲げ、目標達成のための活動を推進する。 (2) ・各種面談、アンケート等を通じて生徒・保護者の思いを汲み取り、家庭と学校の共通理解に基づいた支援を実施する体制を更に進める。 ・日頃の指導や行事等の事前事後の指導等を通して、自己の行動について生徒に考えさせ、行動の変容につなげる生活指導を進める。 ・いじめに対する職員の意識変革に努め、その未然防止と早期発見、即時対応の仕組みを構築する。	(1) 対外試合やコンクール・イベントへの参加、学校行事の運営補助等、自己肯定感の高まる活動を提供し支援できたか。 (2) ・職員全体の共通理解に基づいた支援が実施できたか。 ・自己の行動を振り返らせ、行動の変容につなげる生徒指導ができたか。 ・いじめを早期に発見し適切に対応できたか。
3	進路指導 ・支援	生徒が将来を見通して目標を持ち、自立のための努力ができるようなキャリア教育の充実を図る。	3年間を見据えたキャリア教育を展開する。	・キャリア教育のプログラムを見直し、入学から卒業まで各段階に応じた系統的な取組を計画して進路指導を実施する。 ・スクールキャリアカウンセラーの一層の活用を図り、進路意識啓発や生徒一人ひとりに応じた支援ができる体制を強化する。	・より系統的なプログラムを計画、実施することができたか。 ・生徒の進路意識を向上させ、進路選択につなげることができたか。
4	地域等との協働	中学校、保護者、地域等に理解され、信頼される学校づくりを進める。	(1) 本校についての理解を得るための情報発信を積極的に行う。 (2) 地域やPTAなどとの連携を推進する。	(1) ・新校を含めた本校への理解を促すために中学校訪問や学校説明会を工夫する。 ・学校生活の様子がわかるようにホームページ等積極的な広報活動を行う。 (2) PTAや地域と連携した活動を行い、相互交流の取組を進める。	(1) ・本校への理解は進んだか。 ・生徒の様子を伝える広報活動ができたか。 (2) 相互交流の取組を実施することができたか。
5	学校管理 学校運営	(1) 安全で清潔感のある学習環境をつくる。 (2) 効率的で組織的な学校運営をめざすとともに事故や不祥事防止に努める。	(1) 校内の環境整備や防災訓練等への生徒の意識向上を図る。 (2) 業務の効率化と事故・不祥事防止に努める。	(1) 防災への取組を一層充実させ、様々な観点からの研修や、生徒への啓発、保護者との連携を進める。 (2) 会議・行事をより計画的・効率的に実施し、成績処理などに落ち着いて取り組めるように計画する。	(1) 保護者への受け渡し計画などの、保護者との連携が考えられたか。 (2) 業務の効率化が進み、事故を防止することができたか。